

社会人のための情報システム誌  
— 経営近代化のシステム研究 —

# Computer Report 9

2017 No.756

## 3 はじめの言葉

### 4 ハード寿命の陰で

ないがしろにされているソフト

田原文夫

どんなものにも寿命はある。システム機器ばかりではない。データファイルの記録媒体についてもである。メインフレーム活用時代、大容量のデータ記憶媒体の主流は MT (磁気テープ) だった。しかし、記録能力維持能力の限界を知らされていた現場では、一年に一度、MT への書き直し (リライト) 作業をしていた。それが常識だった。電子媒体であるディスクや SD、USB メモリも、CD、DVD でも、記録能力に寿命がある。問題は、記録媒体の寿命だけではない。システム機器導入とともに提供されるソフトウェア資産であるデータ資産についても寿命があることだ。ユーザーが一番大事にしているのは、ハード資産ではなくソフト資産なのだ。

## 10 情報社会を考える その84

情報社会作りに、どう関与し、どう貢献していくか

編集部

### 周辺国の軍事脅威と日本政府の対応

憲法改正を一番の政治信条としてきた安倍政権だが、身辺に巡る疑惑問題で吹き飛びそうになっている。そんな中、9月29日早朝、北朝鮮が日本領土上空を越えて太平洋に着弾するミサイルを発射した。Jアラートが作動したとして、マスコミも朝から大騒ぎだった。安倍首相はというと、改めてというか「国民の生命と財産を守るため万全を期していく」と、お定まりのセリフを、今度も繰り返していただけだった。加えて、「北朝鮮の動きは、当初から把握できていたし、(頭上を通過した) ミサイルの動きもつかんでいた」と強調して見せた。

## 12 オープンガバメント OG 45

情報社会をすすめる

その79

水田 浩

1990年代に紙によるワークフローをデジタルにして、メインフレームと端末を使って事務系、技術系で個別に行われるようになり、1995年代にはインターネットが世界中で使えるようになってきた。そして、個別に開発されたシステムをより早く、より安く、より良くつかうために製品やシステムのライフサイクル全体の統合化を模索するようになっていた。そして、産業別、国別のシステムとデータを世界共通にしてより生産性の高いビジネスをするために、世界共通の情報基盤を作らなければならないという認識が世界中で起こっていた。そこで、CALS の一つの製品、システム、サービスを全ライフサイクルで、「情報は一度つくって、幾度も使う」という運動は世界規模で受け入れられた。一つの CALS という概念 (言葉) で 1995 年から 2005 年に掛けて世界中が一つになって運動を起こすようになった。

## 1 8 連載 アーキテクチャ論 (77)

### ArchiMate3.0

山本修一郎

国立大学法人 名古屋大学 情報連携統括本部 情報戦略室 教授

本連載31から36回でオーパングループ (TOG, The Open Group) によるエンタープライズアーキテクチャ (EA, Enterprise Architecture) 記述言語であるArchiMate2.0 (アーキメイト) を説明した。今回は、2016年に公開されたArchiMate3.0 の概要とその記述例を説明する。2016年に公開されたArchiMate3.0仕様では、モチベーション (動機) 要素や実装移行要素などの拡張要素が言語仕様の中に統合されるとともに、新たに、戦略要素と物理要素などが拡充されている。

## 2 7 連載 日本再生と人材育成

### 人口減少／少子高齢化時代への挑戦 最終回 (その3 2)

#### 人材フル発揮のための就職/転職のステップとポイント

##### 総括

Dr.ベスト

日本の人口減少/少子高齢化時代の原点にもどると、この先一人ひとは極めて貴重な人材 (人財) であり、その意思と能力をいかにフル発揮できる仕事に就き、その活動を通して最大限の成果が得られるような働く仕組みを準備・提供していくのが喫緊の課題であるといえよう。人口減少/少子高齢化時代において最も重要なことは、数少ない人材のほとんど全員が自分の意思と能力にマッチした仕事に就き、その意思と能力がフルに発揮されるような状態が実現できることである。

## 3 8 IT 新時代とパラダイム・シフト

### 第94回 ゲノム医療を主導した

#### オバマ大統領とビッグデータの活用

根本忠明

昨年 NHK の放送で、遺伝子解析によるゲノム医療が大きな注目を集めた。癌医療の革命と云われ、スパコンや AI によるビッグデータ解析が不可欠な医療である。残念ながら、日本のゲノム医療は、欧米諸国だけでなく中国や韓国にも遅れている。遅れの原因は医療と IT の融合領域を主導できるトップの不在にある。この領域でアメリカが世界をリードしてきたのは、医療改革と先端的な IT の推進を目指したオバマ大統領の存在が大きい。後発組の日本や日本企業にとってもチャンスはある。これまでの経緯と現状を報告する。

## 4 1 続インテリジェンスへのいざない 92

### 適切な事実データの収集は

#### 適切な情報公開がもたらす

今井 武

人材不足だと言いながら、依然として低賃金に苦しむ労働者が多い日本である。何故賃金的に優遇されないのか。真実が見えてこない。Jアラートが北朝鮮のミサイル発射を告げた。しかしその後の関連情報は無い。国民に知らされないことが多すぎる。事実データ/情報の入手については、一般国民を惑わす日本版フェイクニュースが横行しているのも気にかかる。

## 4 4 連載 四字熟語カトレーニング

すぎやまチヒロ

## セミナー／講演会の講師紹介

ユーザー会/各種研究会/勉強会における  
セミナー/講演会での講師をご紹介致します。

クラウドサービス導入前のチェックポイント

クラウドサービスは果たしてTCO削減に寄与するか

レガシーマイグレーションの進め方と留意点

これからの企業情報システム構築のポイント

これからの金融情報システムの課題

役に立つ情報管理の実践と課題

情報セキュリティ監査の受け方／臨み方

リポジトリベースのシステム資源管理

その他 クラウドサービス導入にお悩みの方

など 各種コンサルティングも承ります

ご質問／何でも相談は下記まで  
株式会社 日本経営科学研究所  
ComputerReport編集部

[cr-info@jmsi.co.jp](mailto:cr-info@jmsi.co.jp)

# CR 選書のご案内

**CR選書**

**改訂版**  
**データ・ウェアハウス**

定価 本体 2,810円+税 送料(〒300)  
A5版 289頁

石井 義典 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 EUCが必要としているデータ	第七章 情報システム部門しかできないデータウェアハウスサポート
第二章 データベースとデータウェアハウスの相違点	第八章 データウェアハウスの構築とデータ移行ツール
第三章 OLAP用のデータウェアハウス	第九章 データウェアハウスの利用とエンドユーザーツール
第四章 リレーショナル・モデルとホスト・リレーショナル・モデル	第十章 データウェアハウスの保守とオートメーション
第五章 正規化の問題点とデータウェアハウス	
第六章 データウェアハウス管理システム	付録

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

---

**実践データ・ウェアハウス**  
**OLAP**

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300)  
A5版 249頁

豊島一政・木村 哲 共著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 これまでのEUCにできなかったこと	第七章 多次元データベースを作る
第二章 OLAPの定義	第八章 多次元データベースの構造
第三章 Code博士によるOLAPプログラムの評価ツール	第九章 多次元データベースとアプリケーション
第四章 分析処理の歴史	第十章 OLAP/サーバーとフロントエンド
第五章 OLAP(多次元データベース)の形	第十一章 OLAPアプリケーションパッケージ
第六章 データウェアハウスとOLAP	付録

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**CR選書**

**消費者行動論**

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300)  
A6版 181頁

田原文夫 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 消費者行動論	第四章 消費者意思決定
第二章 消費者行動と心理的決定要素	第五章 消費者行動トピックス
第三章 消費者行動と社会的決定要素	第六章 人間であること(人間行動トピックス)

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

---

aism 研究活動報告  
**インターネットセキュリティの落とし穴**

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300)  
A6版 197頁

一橋大学教授 安田 聖 監修  
aism情報セキュリティ・マシナリ研究会 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 落とし穴を回避するための基礎テクノロジー	第十一章 WORM/KEYの監視と検束記
第二章 aism情報セキュリティマシナリ研究会の歩み	第十二章 メールが漏れない
第三章 認知される電子署名方式の基本原則	第十三章 生体認証用のための情報オーナーの課題
第四章 世界を駆けめぐったOodeRedフォーム	第十四章 最近のインターネット防衛戦線心得
第五章 情報システムにおけるリスク	第十五章 ITガバナンスの意識と情報セキュリティ対策
第六章 情報漏洩対策	第十六章 情報セキュリティ対策とセキュリティ教育
第七章 VPN(バーチャルプライベートネットワーク)	第十七章 ケーススタディ「情報セキュリティ教育」
第八章 aismの2016年度の専攻科目	第十八章 せわしりまじり作成にあたってのメモ
第九章 情報セキュリティ研究の歩みと課題	
第十章 インターネット関連の苦情と不正アクセス	

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**CR選書**

エンタープライズ情報システム設計の基本書！  
**トップ主導の情報システム革新**

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300)  
A6版 271頁

高田 顯重 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 情報システム利用環境の変遷と今日的課題	第五章 情報システム監査
第二章 経営活動と情報システム	第六章 情報システム部門の体制革新
第三章 経営情報システム革新の方向	第七章 情報システムの成長野原
第四章 トップ主導の情報システム開発	第八章 変化対応のシステム作り

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

---

**計量モデルの構造と解法**  
—オーダーリングとスパース—

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300)  
A6版 212頁

安田 聖 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一部 計量モデル	第二部 大規模モデルの効率的解法
第一章 計量モデルと計量モデルの解法と歴史	第五章 計量モデルの分割方法
第二章 線形計量モデルの解法	第六章 方程式のオーダーリング
第三章 非線形計量モデルの解法	第七章 大規模モデルの解法
第四章 反復法の問題点	第八章 スパース
付録・電子計算機の高速化と計算方法	

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**CR選書**

**『いざ！というときの得広報』**  
すぐに役立つ実践117カ条

定価 本体 1,740円+税 送料(〒300)  
A5版 280頁

加藤 洋一 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

■ 広報ビジネスの前提条件	■ 売れ文も企業体質
■ ニュースリリースは東方向送信	■ 守るも求めるも広報が窓口
■ 活字媒体の特性をチェックする	■ あなたならどう対応する「事例集」
■ 記事の材料(ネタ)と発掘のテクニック	<付> 監修とうまく付き合う十六の鉄則(まとめ)

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

---

**ザ・ワールドリンク**  
がんばれ、国際グローバルサーバー—  
IBM社に挑んだ国際情報システム作りの物語

定価 本体 1,840円+税 送料(〒300)  
A5版 260頁

迫 忠幸・湯浅 誠 共著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 発端	第十一章 日本開発手法の違い
第二章 あるプロジェクト	第十二章 米軍チーム撤退の危機
第三章 新しいシステムへの働き	第十三章 新たな仲間
第四章 WOOIに向けて	第十四章 米軍軍務所移転と新たな組み
第五章 FJO, IBM競争	第十五章 開発フル稼働と1/10タツタ
第六章 日本プロジェクトチームの歩み	第十六章 ユーザー教育
第七章 プロジェクト開始	第十七章 日本運用体制と本番稼働日誌
第八章 米軍チーム立ち上がりの流れ	第十八章 既存システムとのデータ交換の問題
第九章 大昔な話、英蘭二国間コミュニケーション	第十九章 稼働その一 直前、稼働、直後の苦しみ
第十章 米軍チーム、異となる三人組	第二十章 稼働その二 安定稼働と北米センター移設

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)